

難聴・言語障害通級指導教室自立活動学習指導案
 —側音化構音のある児童の指導—

1 児童の実態

(1) 児童名 A ○○小学校 1年

(2) 言葉の状態

- ・側音化構音（イ列音とそれら拗音、サ行音、ツ音、「ケ、ゲ」音）
- ・置換（ラ行音→ダ行音、ザ行音→ジャ行音）※ザ行音は自然改善がみられる。

(3) 生育歴 省略

(4) 家族構成 省略

(5) 現在の様子

- ・5月から通級による指導（週1回）を始め、12回が終わったところである。
- ・舌や口唇周りの脱力練習から舌出しイ音の無意味音節、単音節、単語、短文まで進んでいる。
- ・舌の脱力練習（ふんわりべろ）は、脱力が安定した後もやめずに毎時間宿題に出し、授業で舌の状態を確認している。
- ・家庭学習は、ほぼ毎日取り組んでおり、進度はゆっくりではあるが後退はせず、スモールステップで前に進んでいる。

2 指導目標

- ・信頼関係を築き、意欲的に学習できるようにする
- ・正しい構音操作を身に付け、日常生活で生かせるようにする。

3 指導計画（本時13時間目）

段階	指導内容
1	・構音検査（課題音の確認） ・舌と口唇の周りの脱力、安定
2	・舌出し対象音の練習（単音節、無意味音節、単語、短文） （イ音→「ス、サ、セ、ソ、シ」音→チ音→ツ音） ・舌は通常の位置で練習（単音節、無意味音節、単語、短文） （「ケ、ゲ」音→イ音→ヒ音→「キ、ギ」音→リ音→ニ音→「ス、サ、セ、ソ、シ」音 →チ音→ツ音→「ピ、ビ、ミ」音） ※ラ行音は、様子を見ながら必要に応じて指導する。
3	・全対象音の総合使いこなし練習 （音読、復唱、数唱、九九、ことば遊び、会話、遊び 等）

4 本時の学習

(1) 目標

- ・脱力した舌出しの状態、つめたい呼気 (/θ/) を出すことができる。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点・支援 ★評価	備考(時間)
1 あいさつをする。 ・自由会話	<ul style="list-style-type: none"> ・リラックスできるように、連絡帳などをもとに学校や家庭での出来事を話題にして、自由に会話をする。 ○自由会話の中で、現在の構音の状態を確認する。 	(5分) 連絡帳
2 前時までの復習をする。 ・宿題の確認	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の取り組みの様子を聞いたり評価したりし、本時の意欲を高められるようにする。 ・舌が偏位したり、口角の引きが見られたりしたら言い直させ、正しい構音操作を意識できるようにする。 ・本児の取り組みのよい点を伝え、自分の取り組みに自信がもてるようにする。 	(10分) 練習ノート
3 脱力した舌(ふんわりべろ)のつめたい呼気出しの練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○口唇周りが脱力しているか、舌を下口唇に乗せ、静止・維持できるか確認する。 ・必要に応じて鏡で自分の口を見せ、口唇周りや舌の状態を確認できるようにする。 ・呼気出し(/θ/)では、まず担当が実際にして見せたり、呼気の出る様子を手で感じ取らせたりし、呼気出しのやり方や、冷たい呼気を出すことが感覚的にわかるようにする。 ・呼気出しの手順とポイントをノートに書き、後で振り返られるようにする。 ○呼気出しの際、口唇周りや舌の脱力の状態を確認する。 ・口唇周りに力が入っているときは、鏡を見せたり、指で軽く口唇周りに触れたりして、力を抜く感覚をつかめるようにする。 ★脱力した舌出しの状態、つめたい呼気(/θ/)を出すことができたか。 	(25分) ・練習ノート ・鼻息鏡 ・鏡
4 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習でよかった点やできたことを称賛したり家庭での練習のポイントを伝えたりし、家庭学習を効果的に進められるようにする。 ・連絡帳で本時の学習内容や児童の様子を知らせ、学級担任との連携が図れるようにする。 ○家庭学習の内容とポイントを、本児及び保護者と確認する。 	(5分) 練習ノート 連絡帳